

|                  |                                                                                                                                                                                                                   |
|------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| Title            | 書評：由谷裕哉・佐藤喜久一郎著『サブカルチャー聖地巡礼：アニメ聖地と戦国史蹟』岩田書店、2014年                                                                                                                                                                 |
| Sub Title        |                                                                                                                                                                                                                   |
| Author           | 塚田，修一(Tsukada, Shuichi)                                                                                                                                                                                           |
| Publisher        | 三田社会学会                                                                                                                                                                                                            |
| Publication year | 2016                                                                                                                                                                                                              |
| Jtitle           | 三田社会学 (Mita journal of sociology). No.21 (2016. 7) ,p.137- 139                                                                                                                                                    |
| JaLC DOI         |                                                                                                                                                                                                                   |
| Abstract         |                                                                                                                                                                                                                   |
| Notes            | 書評                                                                                                                                                                                                                |
| Genre            | Journal Article                                                                                                                                                                                                   |
| URL              | <a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AA11358103-20160702-0137">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AA11358103-20160702-0137</a> |

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

---

書評：由谷裕哉・佐藤喜久一郎著

『サブカルチャー聖地巡礼——アニメ聖地と戦国史蹟——』岩田書店、2014 年

塚田 修一

---

評者は、もうかれこれ 8 年ほど、横須賀を一つのフィールドとして研究を続けている。そして、2013～2014 年頃からであろうか、その横須賀が新たな様相を呈し始めてきたことに気づいた。横須賀に、多くのアニメファンが訪れるようになってきたのである。横須賀は、オンラインゲーム及びアニメ『艦隊これくしょん』の聖地（横須賀鎮守府）であり、また、アニメ『たまゆら』の聖地でもあるのだ。このような、アニメや映画などの舞台をファンたちが「聖地」として訪れる行為は、「聖地巡礼」と呼ばれる。周知のように、こうした現象は横須賀に限ったことではなく、全国の様々な場所が「聖地」として「巡礼者」を集めている。また、一昨年と昨年に非常勤先の大学で、学生たちに「聖地巡礼」体験を尋ねたところ、非常に多くの回答が寄せられたことに驚かされた。もはや、「聖地巡礼」は一部の熱心なファンだけが行っているわけではなく、極めて一般的な営みになっているようである。

こうした「聖地巡礼」現象に対しては、これまで主に観光学の分野から、「コンテンツツーリズム」としてアプローチされてきた（岡本 2013；岡本編著 2015 など）。そして、その「聖地巡礼」現象に、二人の著者が民俗学の立場からアプローチしたのが本書である。

本書の目次と、評者がとりわけ興味深く読んだ内容を紹介していこう。

序章 アニメ聖地巡礼と戦国史蹟巡礼を研究するために

第 1 部 アニメ聖地巡礼

第 1 章 生成する伝統としてのアニメ聖地巡礼

第 2 章 アニメ聖地に奉納された絵馬に見られる祈りや願い

第 2 部 戦国史蹟巡礼

第 3 章 おもてなし武将隊と戦国史蹟巡礼

第 4 章 博物館と新しい「歴史」ブーム

終章 サブカルチャー聖地巡礼の研究に向けて

第 1 部においては、「アニメ聖地巡礼」について扱われている。ここで興味深いのは、第 1 章における「巡礼ノート」の分析である。「巡礼ノート」とは、アニメ聖地に関連する場所に置かれた巡礼者のためのコミュニケーション・ノートである。それらを分析対象にすることがで

塚田修一「書評：由谷裕哉・佐藤喜久一郎著『サブカルチャー聖地巡礼——アニメ聖地と戦国史蹟——』」

『三田社会学』第 21 号（2016 年 7 月）137-139 頁

きること自体から、筆者がいかにフィールドに密着しているかを窺い知ることができるのだが、本書ではその「巡礼ノート」を丁寧に分析することで、巡礼者の行動が、実は伝統的な巡礼と近接しており、「聖地巡礼」が、伝統的な構造を参照しながら現代において生成しつつある事象、すなわち「生成する伝統」である、という新たな知見を導き出している。

第 2 部においては、「戦国史蹟巡礼」について扱われている。戦国史蹟の巡礼者とは、いわゆる「歴女」などをイメージすると良いだろう。ここで興味深いのは第 4 章におけるインタビュー調査である。とりわけ、歴史マニアである Y 氏へのインタビュー調査は面白い。彼は研究者や学芸員による、歴史の公式的見解を「仮想敵」として批判し、「知られない人々」の復権を夢見て、その歴史を独学で研究しているという。すなわち、ここでは、歴史の「真正さ」をめぐるせめぎ合いが現出しているのであり、本書はそれを生き生きと描きだすのである。

終章においては、「コンテンツツーリズム」と「サブカルチャー聖地巡礼」との差異を手際よく整理しながら、「サブカルチャー聖地巡礼」を、「巡礼者が SNS を含むインターネット情報との応答を通じて聖地や自分の巡礼スタイルを定める、再帰的な現象」と位置づけている。

さて、ここまで駆け足で概観してきた本書の内容からもわかるように、本書を貫いている最大の特色は、「聖地巡礼」現象に関する新たな知見が、フィールド調査から導き出されていることである（ゆえに、既存の理論や学説を当てはめるだけの安易な分析は、周到に回避されている）。その記述には、著者二人の民俗学者としての力量が十二分に発揮されており、そのことが「聖地巡礼」現象にアプローチする他の研究——観光学による「コンテンツツーリズム」研究など——との決定的な違いとなっている。

したがって本書は、「聖地巡礼」研究についての民俗学的アプローチによる最良の成果として評価されるべきであるし、「聖地巡礼」のフィールドワークに携えられるべき良きガイドブックでもある。また本書によって、「サブカルチャー聖地巡礼」という視角が「聖地巡礼」研究に加えられたことは、「聖地巡礼」現象に何かしらの関心を持つ者にとって、とても幸福なことである。実際、評者個人としても、冒頭で述べた「聖地としての横須賀」の現在を考察するための多くの示唆を得ることができた。

しかしながら本書を読み終えた評者は、僅かばかりのもどかしさを覚えてしまったことを告白しておこう。それはおそらく、本書における「なぜ」の問いの不在に由来する。ここまで述べてきたように、本書においては、「聖地巡礼」が「どのように」行われているかについては、フィールドワークに基づいた緻密な検討がなされており、それこそが本書の最大の特色となっている。——しかしそこには、「なぜ」の問い（と解答）が不在なのである。

例えば、本書で扱われている聖地の多くが、交通の便があまり良くない場所にある。そして、本書によれば、「聖地とは単なるアニメ作品の舞台ではなく、巡礼者側が恣意的に選択し、聖地と意味づけた場所、と構築主義的に解釈すべきである」という。それならば、そんな「恣意的に選択」されたにすぎない、しかも辺鄙な聖地に、なぜ巡礼者たちは向かうのだろうか。あるいはそのような聖地巡礼がなぜ可能になっているのか——すなわち、それら聖地巡礼を可能に

している社会的条件とは何か。また、「聖地巡礼」が既に一般的な営みになっていることは冒頭で述べたが、それはなぜなのか。そう問いたくなるし、その解答を期待してしまうのである。だが本書には、そうした問いと解答を見出すことはできない。

もちろん、これは多分に評者の身勝手な「無い物ねだり」の類であるし、構築主義——それは主に「どのように」という問いを立ててきた——を標榜する本書において、「なぜ」ではなく「どのように」が探求されていることは、ある意味当然の姿勢であるとも言えよう。しかしながら、評者がよりもどかしさを覚えてしまうのは、筆者たちの本書における調査の質および量が、「なぜ」という問いに対する考察を行うのにも十分であったと思うからである。そして、そうした「なぜ」が、そして「聖地巡礼」の社会的条件が考察されてこそ、「サブカルチャー聖地巡礼とは、再帰的な現象である」という本書の主張も更に説得力を持つてくるのではないか、また、それらが考察された時に、本書（の思考）は、もはや民俗学から越境して、社会学としての相貌をも帯び始めてくるのではないか。そう思うからである。

——あるいは、こう考えるべきなのかもしれない。すなわち、この「なぜ」の考察は、本書の読者に課された「宿題」でもあるのだ、と。だとすれば、その「宿題」は、少なくとも、部屋に籠って考える類のものではないだろう。本書を片手に、フィールドにおいて考察されるべきものであるはずだ。

#### 【文献】

岡本健、2013、『n次創作観光』NPO 法人北海道冒険芸術出版。

岡本健編著、2015、『コンテンツツーリズム研究』福村出版。

（つかだ しゅういち 東京都市大学・大妻女子大学非常勤講師）